

1 災害記録等に関する資料

1-1 魚津市の気象災害等

この年表は、魚津市に影響を及ぼした主な気象災害等を抜粋したものである。

(資料：富山県地域防災計画、魚津市史他)

年 月 日	災害項目	記 事
明治18年 (1885) 7月1日	強風 大雨 波浪	(魚津市史：暴風雨、伏木魚津東岩瀬等、港内の難波船惨害を極む。)
明治32年 (1899) 9月8日	大雨	台風が紀伊半島を通り、中部地方を横断。各河川出水、県下全般に被害。伏木の降水量(8日)73.9mm。家屋床上浸水3,367戸、床下浸水2,310戸。堤防6か所、橋梁2か所、耕地浸水数10,000ha。
明治38年 (1905) 8月7日～8日	大雨	九州西方の海上に台風、日本海中部に低気圧があつて、この影響により県東部に大雨。県東部の河川が洪水となり、下新川郡布施村、魚津町、三日市町で家屋流失2戸、床上浸水144戸、床下浸水687戸、堤防損壊延長11,200m。伏木の降水量(7～8日)212.3mm。
明治45年 (1912) 7月22日	大雨	富山港付近の地形性低気圧により県平野部150mm、山間部で250～300mm、県東部の諸河川洪水。県中・東部で死者21名、負傷者4名、家屋浸水床上3,932戸、床下3,170戸、流失全壊107棟。田畑流失1,303ha、同浸水2,850ha。橋梁流失108か所、堤防、道路損壊延長36.4km。伏木の降水量(22日)109.6mm。
大正7年 (1918) 9月24日	強風 大雨 波浪	台風、静岡県西部に上陸、中部地方を北上し、日本海に抜ける。伏木の最大風速N18.8m/s。県西部と富山湾沿岸地区に被害多し。死者2名、家屋全半壊183戸、床上浸水200戸、床下浸水83戸、堤防決壊約800m、橋梁流失3か所。(魚津市史：各河川氾濫、住家・漁船・突堤に被害)
大正14年 (1925) 12月1日	高波	(魚津市史：魚津町・経田村で民家100余戸床下浸水、沿岸堤危険)
昭和4年 (1929) 4月1日～2日	高波	(魚津市史：経田村家屋浸水5戸、納屋浸水12戸)
昭和5年 (1930) 7月10日	大雨	梅雨前線が太平洋岸から北上し、中部地方に停滞。県平野部で100～150mmの大雨。伏木の降水量(10日)99.0mm。県中部で死者1名、負傷者6名、家屋浸水70戸、堤防決壊220m、田畑流失620ha、同冠水75ha。 (魚津市史：梅雨豪雨により各河川増水、魚津でも60町歩浸水、橋りょう数か所に被害)

年 月 日	災害項目	記 事
昭和6年(1931) 1月10日	強風 雪 波浪	二ツ玉気圧が北海道南東沖にあり、960mbに達し、日本付近は顕著な冬型気圧配置となり、10日未明から北陸一帯は猛吹雪となった。特に沿岸地域で被害が大きくなり、死者5名、家屋全半壊56戸、同浸水300戸、堤防決壊90m、橋梁流失1か所、漁船転覆破損20隻。電信電話はほとんど不通となった。(魚津市史：魚津町漁船2隻転覆、2名溺死)
昭和8年(1933) 9月5日	強風 大雨 波浪	台風が日本海南部を北東進。氷見、伏木、四方で浪害。住家全壊52戸、同浸水832戸、非住家全半壊31棟。道路損壊40か所、漁船流失20隻、田畑冠水93,000ha。(魚津市史：経田村で納屋21戸全半壊、浸水32戸)
昭和9年(1934) 7月12日	大雨	梅雨前線が中部地方で活発となり、県平野部で100～150mm、南東山岳部で800mmの豪雨となった。このため、大小の河川がはん濫し、県全域で大きな被害が出た。死者行方不明者31名、重傷者9名、軽傷者300名。家屋流失78戸、同浸水9,958戸、道路損壊28か所、橋梁流失40か所、田畑流失1,000ha、同冠水6,000ha、農作物被害面積5,627ha。(魚津市史：県下各河川で氾濫、堤防決壊、橋流失、家屋浸水、田畑流失など大被害、早月川氾濫)
昭和10年(1935) 11月12日	波浪	低気圧が北海道南東沖で発達し、このため富山湾に寄り回り波。伏木、新湊、四方、滑川の各町と倉垣村で大きな被害。死者1名、負傷者17名、住家流失全壊34戸、同半壊41戸、非住家全半壊215棟、家屋浸水395戸、防波堤決壊1,800m、道路損壊1,100m、橋梁流失2か所、漁船破損37隻。(魚津市史：魚津海岸で家屋流失7戸、半壊7戸、浸水300戸、波除石堤切断85メートル、決壊29メートル、道路決壊500メートル、宅地流失1500平方メートル、漁船流失10余隻)
昭和11年(1936) 6月29日	大雨	(魚津市史：県内東部河川増水はん濫、片貝川・早月川・角川等はん濫)
昭和13年(1938) 12月24日～26日	大雪 着雪	低気圧が太平洋岸を通過し、銚子沖で発達。顕著な冬型の気圧配置となり風雪が強くなった。着雪と強風によって電線の切断や電柱の倒壊があり富山市を中心に県内で電話1,800回線が被害を受け、また、電灯線も同様に被害を受けた。特に魚津、岩瀬間で著しかった。
昭和14年(1939) 8月5日～6日	大雨	台風が関東から北西に進み日本海に抜けた。県東部山岳部で200～250mmの大雨。上市川、片貝川、小矢部川がはん濫した。下新川、中新川、西砺波、東砺波の各郡で被害。死者2名、橋梁流失1か所、堤防決壊640m、道路、石垣等損壊130m。(魚津市史：県内各河川増水、角川で橋1か所、漁船1隻流失)

年 月 日	災害項目	記 事
昭和14年 (1939) 7月15日	大雨	(魚津市史：朝からの豪雨で片貝川の堤防100メートル決壊、田地10町歩浸水、3～4町歩の稲流失)
昭和18年 (1943) 11月27日	大火	27日未明、魚津町から出火。西風にあおられ住家251戸焼失。死者1名、負傷者34名。
昭和20年 (1945) 10月10日	地すべり	(魚津市史：東城地内で地すべり、被害面積21ヘクタール、埋没人家7戸、死亡1人)
昭和24年 (1949) 2月15日～16日	波浪	(魚津市史：経田・道下・魚津などで突堤決壊流失、経田港に土砂押し寄せ港口塞ぐ)
昭和24年 (1949) 9月1日	台風 大雨	(魚津市史：キティ台風により県下に大水害)
昭和27年 (1952) 7月1日	大雨	顕著な寒冷前線が通過。東部山岳地帯に400mmの大雨。黒部川、片貝川がはん濫し、下新川郡、魚津市で大被害。死者7名、負傷者91名、行方不明者5名。住家全壊20戸、同半壊78戸、同流失11戸、同床上浸水4,465戸、同床下浸水12,154戸。住家被害1,483戸。堤防決壊874か所、橋梁流失290か所、道路損壊804か所、山がけ崩れ311か所、田畑流失4,296ha、同冠水41,920ha、被害額59億円の大水害。
昭和27年 (1952) 11月28日～29日	波浪	太平洋岸を発達した低気圧が通過。このため28日～29日にかけて富山湾では北東の風が強くなり、沿岸一帯に高波が襲った。新湊、堀岡、四方、滑川、魚津で家屋浸水982戸。田畑冠水2ha。
昭和28年 (1953) 1月12日～13日	大雨 波浪 融雪	二ツ玉低気圧の通過による大雨と暖気移流による融雪が重なり、東部の小河川が出水。中新川郡で被害。家屋浸水427戸、堤防決壊8か所(1,005m)。舟小屋流失2棟。(魚津市史：魚津・滑川海岸に被害集中、護岸堤防決壊4か所、合掌杵流失15、舟小屋流失2、浸水家屋51戸)
昭和31年 (1956) 1月7日～10日	大雪	南岸低気圧が三陸沖で発達。この後、日本海を低気圧が次々に通過し、降雪が続いた。各地の積雪、富山107cm、魚津130cm、生地145cm。特に沿岸部、平野部で交通網が寸断された。死者行方不明者4名、負傷者2名。住家全壊3戸、一部破損3戸、非住家全壊7棟、電柱倒壊6本、電信施設被害438件。
昭和31年 (1956) 7月16日～17日	大雨	梅雨前線の活動が活発化し、県東部山沿いで200mm以上の大雨。東部の諸河川が出水し、相当な被害。下新川郡、黒部市、魚津市で死者1名、家屋一部損壊2戸、同床上浸水3戸、同床下浸水792戸、水田流埋没12ha、同冠水1,087ha、道路堤防決壊37か所、橋梁流失2か所、崖くずれ12か所。(魚津市史：東部山岳に大雨、黒部川、早月川、片貝川、布施川等増水、堤防決壊等被害大なり)

年 月 日	災害項目	記 事
昭和31年 (1956) 9月10日	強風 大火	台風第12号が日本海を北上。フェーン現象によって魚津大火。19時45分魚津市真成寺町から出火。乾燥した強風にあおられ旧市街の4割にあたる1,496戸焼失、焼失面積15万坪、り災者7,249人、死者5名、重傷者5名、軽傷者165名、損害見積額75億8千万円。
昭和31年 (1956) 12月9日～10日	高波	(魚津市史：魚津水産の大敷網と漁船大破)
昭和32年 (1957) 12月12日～13日	高波	(魚津市史：魚津・生地浜に被害)
昭和33年 (1958) 4月22日～23日	大雨	(魚津市史：各河川で増水、片貝川では島尻で堤防80メートル、東尾崎で50メートル、平伝寺、青柳でも堤防決壊、早月川でも吉野地内その他で堤防190メートル決壊、経田地内落合橋10メートル流失)
昭和34年 (1959) 5月4日～5日	大雨	(魚津市史：布施川、角川で警戒水位突破し被害あり、布施川で堤防決壊1か所、早月川も1か所、片貝川でも1か所、根固め流失1か所の被害)
昭和36年 (1961) 1月26日～27日	高波	(魚津市史：魚津漁港内に高波、小型漁船1隻沈没、4隻破損)
昭和36年 (1961) 9月16日	台風 大雨	(魚津市史：第二室戸台風により東部山岳に大雨、角川、片貝川で堤防決壊、橋流失、住居浸水など大きな被害を出した。)
昭和38年 (1963) 1月～2月6日 〔1月31日県災害対策本部設置〕	大雪 融雪	昭和38年1月豪雪。大陸の高気圧は、1050～1060mbの強い勢力を維持し、一方、日本海では次々に低気圧が発達して通過、本邦は顕著な冬型の気圧配置が長時間維持した。最深積雪は、富山186cm、伏木225cm(累積記録それぞれ第2位、第1位)。11～12日は、西部平野部で70cm、15～16日は、県下全般に40～60cm、18～19日は、山沿地方で60～90cm、21～22日は、県下全般に30～60cm、23～26日は、県下全般に連日30～70cmの降雪があり、その後、2月2日から融雪による浸水被害が加わり、大きな被害となった。県下全般で死者13名、負傷者31名、行方不明者1名。住家全壊46棟、同半壊28棟、同一部損壊2棟、同床上浸水122棟、同床下浸水822棟。橋流失1か所、山崩れ1か所。北陸本線23～28日ほぼ全面運休。
昭和39年 (1964) 7月7日～9日	大雨	能登半島沖を東西に伸びる梅雨前線と富山県を通過した熱帯性低気圧のため平野部で100～150mm、西部で200mm以上。東部山岳部500～600mmの大雨。県西部の砺波平野を中心に県全般に被害。行方不明者1名、住家床上浸水53棟、同床下浸水929棟。水田流埋没49ha、同冠水2,201ha。道路損壊42か所、橋流失6か所、堤防決壊20か所、山崩れ16か所。

年 月 日	災害項目	記 事
昭和39年(1964) 7月17日～18日	大雨	台風第7号くずれの低気圧が日本海南部の梅雨前線を進み能登沖を通過。県中・西部の平野部と東部山岳部で250mm以上の大雨となり、富山平野・砺波平野で被害が大。死者・行方不明者5名、住家全半壊23棟、同床上浸水2,153棟、同床下浸水12,156棟。水田流埋没75ha。水田・畑冠水5,853ha、道路損壊172か所、橋流失39か所、堤防決壊117か所、山崩れ90か所。
昭和44年(1969) 8月10日～11日 〔8月11日県災害対策本部設置〕	大雨	北陸地方に前線が停滞し、各地に大雨。県の西部で150～200mm、東部平野部200～300mm、東部山岳部で1,000mmに達する豪雨となった。県東部の大小河川は洪水となり、県東部を中心に200億円を越す大被害となった。死者5名、負傷者24名、行方不明者1名。住家全壊50棟、半壊92棟、一部破損121棟、床上浸水2,132棟、床下浸水7,470棟。非住家11棟。田畑流失埋没669.3ha、冠水65.5ha、農業関係被害額10億8,830万円。農地林務関係50億4,170万円。土木被害1,711か所、同被害額124億430万円。電力・通信・鉄道等其他公共施設36億3,700万円。り災9,865世帯。
昭和46年(1971) 7月24日～26日 〔7月26日県災害対策本部設置〕	大雨	「戻り梅雨」により県内は、23日夜から24日早朝にかけて各地に強い雷を伴った大雨が降り、県下の河川がいっせいに増水し、各地で被害が出た。24日3時～6時の間に黒瀬川、高橋川、角川、布施川、渋江川の中小河川が警戒水位を越え、富山市、滑川市、砺波市等で床上や床下の浸水の被害が出た。
昭和51年(1976) 8月14日	大雨	前線が日本海中部に停滞、台風13号の影響による湿潤な空気の流失と北方寒気の南下のため前線活動が活発となりゆっくり南下、沿岸部を中心に大雨。降水量は、富山137mm、氷見221mm、魚津210mm、伏木184mm、立山287mmで県下全般に被害。死者4名、負傷者1名。住家全壊6棟、同半壊15棟、同床上浸水101棟、同床下浸水1,769棟。耕地流失12ha、同冠水1,074ha、道路損壊39か所、橋流失1か所、山・がけ崩れ94か所。鉄軌道1か所。り災111世帯。
昭和55～56年 (1980～1981) 12月27日～1月20日 〔1月6日県災害対策本部設置〕	大雪 着雪	北半球500mb面では3波数循環の大雪型が続き、地上ではシベリア高気圧が発達し、顕著な冬型の気圧配置となった。強い寒波は12月27日～30日、1月2日～8日、1月10日～14日の3回来襲した。最深積雪は平野部150～200cm、山沿い200～250cm、山間部300～400cmとなり昭和38年豪雪につぐ大雪となった。全県で圧雪による家屋の倒壊や除雪事故、雪崩等による死者が急増した。死者12名、重傷者135名、軽傷者596名。住家全壊5戸、半壊34戸、一部破損761戸、床上浸水101戸、床下浸水1,338戸。非住家全壊124棟、その他814棟。公共用建物42か所。農業災害208億円、林業災害323億円。その他水産関係にも多大の被害が発生した。交通関係では北陸・高山本線全面不通、遅延、除雪費等国鉄関係124億円。全日空欠航、富山地方鉄道関係も

年 月 日	災害項目	記 事
昭和56年(1981) 12月2日	強風 波浪	大きな被害を受けた。電力、通信関係では送電鉄塔(66,000ボルト)11基倒壊、ほかに断線、電柱折損等数億円の被害。 本州の日本海沿岸沿いに北東進した低気圧から南西に伸びる寒冷前線が2日早朝富山湾を通過、所々で突風が起きた。魚津沖で漁船(12人乗り込み)が突風と横風を受け乗組員7人が海中に転落、うち6名死亡。
昭和58年(1983) 7月20日～27日	大雨	本州に停滞していた梅雨前線の活動が活発となり、20日から27日にかけて断続的に雨が降り続き、梅雨末期の大雨となった。この間の総降水量は富山332mm、伏木327mm、泊312mm、氷見281mm、魚津383mm、砺波・八尾261mm、上市404mm、福光273mm、立山1,060mmの大雨となり、家屋一部損壊4棟、床下浸水180棟、田冠水671ha、河川215か所、道路178か所の被害を受けた。
昭和58年(1983) 9月27日～28日	強風 大雨	28日午前10時20分ごろ長崎市に上陸した台風10号は、その後急速に衰え同日午後3時温帯低気圧に変わり、29日早朝関東沖に抜けたが、秋雨前線を刺激したため、県内では28日午後から風雨が強くなり深夜まで続いた。最大風速は富山で28日15時20分、北東15.7m/s、伏木17時50分、北北東14.1m/s、泊17時、北東17m/sを記録した。総雨量は富山156mm、泊132mm、氷見116mm、魚津177mm、伏木162mm、砺波189mm、上市188mm、福光208mm、八尾171mm、立山249mmに達した。負傷者3名、床上浸水12棟、床下浸水683棟、道路15か所、橋梁1か所、河川6か所の被害が出た。
昭和59年(1984) 1月25日～3月23日 〔2月10日県災害対策本部設置〕	大雪	冬型の続いた1～3月にかけ数波にわたって強い寒波が襲来し、富山の降雪量合計が692cmに達し、56豪雪に近い大雪に見舞われた。各地の最深積雪は富山で122cm、伏木95cm、氷見で100cm、福光で172cm、八尾で203cm、魚津で136cmを記録した。また、雪害状況は死者21名、負傷者87名、住家の全壊3棟、半壊1棟、部分壊32棟、床上浸水16棟、床下浸水216棟であった。
昭和61年(1986) 2月5日～6日	大雪	冬型の気圧配置が続き、強い寒気が南下したため、5日未明から6日朝にかけては激しい雪が断続的に降り、県東部の平野部を中心に大雪となった。富山市や魚津市では60cmを超える降雪があり、積雪は富山市で117cm、魚津市で148cmに達し、この冬の最深となった。このドカ雪のため、鉄道の運休や遅延、バスや航空機の遅延が相次ぎ、また、道路では圧雪や凍結による車のスリップ事故が多発し、交通網が混乱した。
昭和62年(1987) 9月17日～19日	大雨	17日～19日は、台風13号が日本の東海上をゆっくり北東に進んだため、県内の上空には寒気が流れ込み大気の状態が不安定となった。このため、17日の昼頃から19日の午前中にかけて、東部を中心に1時間に20～30mmの強い雨が断続的に降り、総雨量は魚津市と宇奈

年 月 日	災害項目	記 事
昭和63年(1988) 8月24日～26日	大雨 落雷	<p>月町でともに215mm、朝日町186mm、上市町132mmに達した。この大雨のため、滑川市、魚津市等で、床上浸水12棟、床下浸水207棟、崖崩れ12か所、道路の損壊14か所、護岸堤防の損壊22か所等の被害が発生した。また、JR北陸本線は富山～滑川間が徐行運転となり、特急電車で最高20分の遅れがでた。</p> <p>24日～26日は、秋田沖に前線が停滞し、これに本州南東海上の熱帯低気圧から暖かい湿った気流が流れ込んだ。このため、県内は大気の状態が不安定となり、連日、強い雷雨が発生し、落雷による停電や短時間の大雨による浸水、がけ崩れ等の被害が相次いだ。</p> <p>24日午前3時15分頃、魚津市江口の北陸電力魚津変電所に落雷したため、魚津市、黒部市、宇奈月町等の約22,000戸が7分～2時間余り停電。また、富山地方鉄道の魚津～宇奈月間の電車12本が運休した。</p>
平成元年(1989) 1月～2月	暖冬 少雪	<p>1月～2月の県内は、気温の高い日が多く、冬型の気圧配置も長続きしなかったため、記録的な暖冬・少雪となった。</p> <p>この間、富山市では、気温が平均で平年を2.5℃上回り、また、降雪の深さの合計は平年の17%と非常に少なく、ともに富山地方気象台観測開始(昭和14年)以来の高温、少雪を記録した。このため、県内では、各スキー場が雪不足となって平年の約40%～50%の減収となった。</p>
平成元年(1989) 7月12日	大雨	<p>梅雨前線の活動が活発となった12日の未明、県内の各地で1時間に20～30mmの強い雨が降り、3時～5時の雨量は、宇奈月町で70mm、上市町で54mm、魚津市50mmに達した。</p> <p>この短期間の大雨のため、魚津市坪野では県道湯上坪野線わきの崖が幅6mにわたって崩れ落ち、また、午前8時頃には、小矢部市矢波で県道谷坪野芹川線わきの山から約200m³の土が崩れ落ちる等、小規模な土砂の崩壊が各地で発生した。</p>
平成2年(1990) 1月22日～28日	大雪	<p>冬型の気圧配置が持続したため、雪が降り続けるとともに、厳しい寒さに見舞われた。</p> <p>特に24日～27日は、石川県輪島市上空約5,000mに氷点下40～34℃の強い寒気が流れ込んで警報級の大雪が降り続き、また、真冬日(1日中氷点下)が連続する顕著な低温となった。</p> <p>この大雪のため、鉄道や路線バスの遅延や運休、飛行機の欠航など交通網が軒並みに乱れ、24日には北陸自動車道で吹雪により視界不良となり乗用車2台、トラック11台が追突する事故が発生した。</p>
平成3年(1991) 6月12日	竜巻	<p>寒冷前線が日本海沿岸に停滞し、その前線に向かって南風が吹き込んでフェーン現象となり、大気の状態が不安定となっていた。午後1時頃県西部で発生した雷</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成3年(1991) 9月27日～28日	強風	<p>雲が発達しながら北東進、午後1時30分から50分にかけて滑川市から魚津市を通過し、局地的に突風や竜巻が発生した。</p> <p>魚津市東山では竜巻のため、プレハブの作業小屋が30m吹き飛ばされて全壊し、近くで働いていた作業員は飛んできた足場の板が頭に当たって10日間のけがをした。また、納屋1棟が全壊したほか、住宅等18棟が一部損壊、半径約200m以内では樹木折損等の被害があった。滑川市江尻では倉庫新築現場の足場が強風によって倒れ、J R北陸本線の架線を切断したため、電車13本に最高2時間30分の遅れがでた。</p> <p>大型で非常に強い台風19号は、長崎県佐世保市の南に上陸し、勢力を保ちながら日本海を北東進、28日午前2時に輪島市の北西170キロを通過した。</p> <p>県内では台風の接近に伴い、27日夕方から次第に風が強まり、午後9時頃から各地で10m/sを超え、28日午前1時～4時にかけて突風を伴った15m/s以上の暴風が吹き荒れた。台風が最も接近した28日午前1時～2時にかけて各地で最大風速と最高気温を観測、又27日夜半を中心に顕著なフェーン現象となった。</p> <p>このため、家屋の損壊や飛来物が当たる等6市町で12名が負傷、住宅の損壊は17市町村で149棟に及びました、小矢部市では強風時に出火し、飛び火等によって全焼29棟、部分焼6棟の被害があったほか、魚津市でリンゴ、福光町や城端町では柿が大量に落下して7～8割の減収被害となり、大豆、水稻、野菜等では倒伏や損傷による被害が広範囲に発生した。その他、ビニールハウスの全半壊192棟、農業漁業施設の破損89棟、プロイラーのへい死は1万羽。道路は落石や倒木等の影響により19路線で一時交通規制が実施された。</p> <p>J R西日本鉄道では特急22本、急行3本、普通115本が運休止、富山地方鉄道も一時不通となった。電力は、高圧配電線の切断や電柱の傾斜等により6万6千戸が停電した。</p>
平成5年(1993) 2月7日	地震	<p>7日22時27分に能登半島沖(北緯37.7度、東経137.3度、深さ25km)で地震(マグニチュード6.6)が発生し、富山、伏木で震度4(中震)を観測した。この地震により、富山湾沿岸には津波注意報が発表された。</p> <p>J R西日本では一時運行を見合わせたため運休や遅れが生じ、大門町の民家のモルタル壁が崩れたほか、富山市、高岡市、小矢部市で天井や窓ガラス等の建物被害が発生したが、津波による被害はなかった。</p>
平成5年(1993) 7月12日	大雨	<p>梅雨前線が北陸付近で停滞し、活動が活発となった。このため、12日朝には1時間20～30mmの強い雨が降り、12日0時から8時までに魚津で72mm、富山で68mmの雨量に達した。日中は小康状態となったが、夕方から14日にかけて断続的に雨が降り、12日から14日にかけての総雨量は立山344mm、宇奈月194mm、平167mm</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成6年(1994) 8月18日～23日	落雷 山崖崩れ 浸水	<p>の大雨となった。</p> <p>この雨で、富山市41棟、魚津市6棟、滑川市3棟の床下浸水が発生し、魚津市で護岸決壊1か所のほか、県内で4か所の道路欠損があった。また、12日朝にはJR富山港線で運休や遅れが出たほか、13日から15日にかけて黒部峡谷鉄道が全面運休となった。</p> <p>太平洋高気圧に覆われて晴れの暑い日が続いたが、18日より上空に寒気が入り込んで、大気の状態が不安定となった。このため、雷雲が発達して局地的に短時間で激しい雨が降ったため、18日午後3時頃、上平村上中田の国道156号線の山川斜面から土砂が流出し、長さ15mにわたって道路に広がり、全面通行止めとなった。また、魚津市大光寺の大光寺中橋付近の路面に直径1mの穴があき、橋台が最大30cm沈んで45cm川中央方向へずれた。激しい水流で川床が削られ、橋台付近の土砂もながされる「吸い出し」によるため、18日夕方に降った強雨により発生したと見られている。</p> <p>18日夕方に魚津市鴨川町等に8棟が、19日夜に砺波市三島町で29棟が、23日未明から朝にかけては新湊市堀岡、作道地区で56棟が床下浸水した。</p> <p>18日午後5時10分頃、JR西日本の滑川、魚津駅で1時間40mmの雨量を記録したため、1時間20分にわたって徐行運転をおこなった。このため、特急5本と普通6本に最大20分の遅れが出た。</p> <p>18日は氷見、富山、黒部、滑川地区の9,510戸が最長2時間35分にわたって停電し、20日は氷見地区の681戸が最長2時間16分にわたって停電した。</p> <p>19日午前10時頃、氷見市柳田地区で落雷による延焼で大作業小屋と農機具置き場の2棟が全焼した。</p>
平成8年(1996) 4月2日～4日 4月11日～12日	大雪	<p>冬型気圧配置となって上空に強い寒気が流れ込んだ2日～3日及び11日～13日に季節外れの雪が降った。特に、真冬並みの寒気が流入した12日は、東部で20～30cm、西部で2～10cmの積雪となった。このため、県内ではビニールハウスの倒壊、スリップ事故の多発や列車の遅れなどの被害が出た。なお、富山と伏木では、積雪の深さの月最大値、降雪の深さの月・日合計値がともに統計開始以来の極値となった。</p> <p>2日～3日は、1日夜から降り始めた冷たい雨が、2日未明から雪が混じり、日中には本格的な雪となって3日朝まで断続的に降った。特に3日の早朝は一時強く降り、9時の積雪は平野部で5～10cm、東部の山間部(上市)では25cmとなった。</p> <p>11日～13日は、11日昼頃から雨に混じって時々雪が降り、12日未明から昼にかけて本格的な降雪となった。このため、12日9時には上市で28cm、魚津及び泊で20cm、そのほかの地点は2～10cmの積雪となった。</p> <p>この季節外れの雪で県東部を中心に水稻の育苗ハウス約3,000棟が全半壊し、被害額は約3億円にのぼった。</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成8年(1996) 6月24日～26日	大雨 山崖崩れ 地すべり 洪水	<p>24日～26日は、上海付近に低気圧が進んできて、本州南岸に停滞していた梅雨前線が能登半島付近まで北上し、前線の活動が活発となった。</p> <p>このため、県内では24日14時から26日14時にかけて雨が降り続き、特に前線上を低気圧が通過した25日は1時間に10～30mmの強い雨が断続的に降り、東部で150mm～370mm、西部で130～160mmの日降水量を観測、ほとんどの観測所で6月の日降水量の極値を更新する記録的な大雨となった。</p> <p>この大雨による被害は、住家の床上浸水1棟、床下浸水28棟、水田の流失・埋没13ha、道路被害54か所、橋梁3か所、河川被害123か所、砂防19か所。</p> <p>また、県内の河川は、片貝川など県が管理する16河川で警戒水位に達し、国の直轄河川の黒部川、小矢部川、庄川、神通川でも警戒ラインを超えた。</p>
平成8年(1996) 7月3日	落雷	<p>3日の日中は、気圧の谷が通過し、上空に冷たい空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となった。</p> <p>このため、県内は昼前頃から夕方にかけて激しい雷雨となり、西部の山沿いでひょうも降った。富山市では、12時07分から同32分にかけて落雷があった。</p> <p>このため、県東部で落雷による停電等の被害が相次いで発生した。富山市弥生町、南田町、向新庄、浜黒崎の5,793戸が停電。雄山町、西公文名、旭町3か所の交差点の信号がストップした。</p> <p>また、12時45分頃には水橋五郎丸の民家の杉に落雷があり、杉の一部を変色させた。一方、富山空港では、雷雲回避のため、福岡便の離発着が15分から25分遅れた。</p> <p>このほか、滑川市辰野では、13時35分頃空き工場の屋根に落雷して約1平方メートルを焼き、魚津市では、小川寺、日尾などで停電し、320戸が影響を受けた。また、城端町と利賀村の一部では、正午前局地的に大粒（直径2cm前後）のひょうが降り、白ネギを折損させる等の被害があった。</p>
平成9年(1997) 1月7日	波浪	<p>7日の朝は、冬型の気圧配置で午前7時過ぎ頃、秋田県付近に進んだ低気圧に伴う寒冷前線が通過。このため、県内は南のち北の風が強く、東部の沿岸海域は、午前8時頃から急速に大荒れの状態となった。</p> <p>7日午前9時半頃、魚津市経田西町の海岸から約50m沖（経田漁港白灯台付近）で小型の漁船が高波を受けて転覆。乗っていた2人が死亡した。</p>
平成10年(1998) 7月9日～10日	大雨	<p>9～10日にかけて、日本海から北陸地方を経て日本の東海上に達する停滞前線の活動が活発となった。県内では9日15時～10日9時にかけて、時間雨量10～30mmの強い雨が断続的に降り続き、宇奈月では2日間の雨量が250mmを超えた。</p> <p>住家関係は、黒部市(4)・魚津市(1)で床上浸水5棟、滑川市(47)・黒部市(19)・魚津市(24)・立山町</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成10年(1998) 7月30日	大雨	<p>(1)・宇奈月町(1)で床下浸水92棟。鉄道関係では、富山地方鉄道の宇奈月町内山駅で線路約100mが、深さ10cmまで冠水し、土砂などが線路をふさぎ上下線合わせて14本がストップした。河川関係では、魚津市木下新の布施川の堤防が約250mにわたってえぐられた他、45か所で被害が発生した。道路関係では、46か所で損壊等の被害が発生した。農業関係では、黒部市・魚津市の農地9.4haが冠水した。</p> <p>30日上空に寒気を伴った低気圧が北陸地方を通過し、大気の状態が不安定となった。県内では、30日の5～8時にかけての短時間に東部を中心に強い雨が降った。魚津では7～8時の時間雨量が40mmを超えた。</p> <p>住家関係は、魚津市(4)・婦中町(4)で床上浸水8棟、魚津市(110)・立山町(31)・婦中町(13)・細入村(1)で床下浸水155棟。鉄道関係では、北陸線の魚津駅上り線が冠水し、魚津－黒部駅間で急行1本、普通4本が区間運休した。また、高山線でも普通5本が運休した。農業関係では、魚津市の農地1.5haが冠水した。その他に細入村楡原石黒地内の神通川の支流の谷のコンクリート壁が崩れた。</p>
平成11年(1999) 9月15日	大雨	<p>15日は、北陸地方をゆっくり南下した秋雨前線が台風16号の接近に伴い活動が活発となり、県内では多い所で200mmを超える大雨となった。</p> <p>家屋の被害は、富山市で1棟、婦中町で1棟、利賀村で1棟、合計3棟が床上浸水し、富山市で5棟、魚津市で2棟、滑川市で7棟、大沢野町で4棟、上市町で3棟、立山町で2棟、八尾町で1棟、婦中町で1棟、山田村で2棟、合計27棟が床下浸水したほか、6市町村で合計16.75haの田畑が冠水した。交通被害は、JR高山線の東八尾－楡原駅間の運転を見合わせ特急列車7本と普通列車36本が運休した。</p>
平成13年(2001) 1月12日～18日	大雪	<p>12日～18日にかけて千島付近に発達した低気圧が停滞し、日本付近は強い冬型の気圧配置が続いて強い寒気が次々と流れ込んだ。12日～14日は山雪型の降り方だったが、15日～16日は里雪・山雪型に変わり、特に沿岸部の魚津・氷見で強い雪が降った。魚津では16日9時までの前24時間に68cmの雪が降り、17日8時に最深積雪が119cmに達し、平成2年以來11年ぶりに積雪100cmを超える大雪となった。</p> <p>人的被害は、14日7時30分頃福光町開発で、15時30分頃滑川市北野でそれぞれ1名が誤って用水に転落し死亡した。また、屋根の雪下ろし中に屋根からの転落(14日高岡市石瀬、17日滑川市下大浦、入善町入善、19日魚津市本江新町)や小型ロータリー除雪機のロータリーに足を巻き込まれる等で9名が重軽傷を負った。魚津市、滑川市、富山市、立山町、入善町で除雪した雪が側溝等にたまったまま解けず住宅等の床下浸水が</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成13年(2001) 6月29日	大雨 雷雨	<p>発生した。交通機関では、道路では車が渋滞しスリップ事故が多発した。J R 北陸本線では、15～18日にかけて全区間運休や区間運休が相次ぎ、17日には15年ぶりにすべての特急が運休した。富山空港では、視界不良等で14日を中心に欠航が相次いだ。電力関係では、17日に氷見市仏生寺脇之谷内等で約900戸、小矢部市了輪で約50戸、利賀村百瀬で約500戸が未明から早朝にかけて停電した。水道関係では、富山市、高岡市で水道管の破裂や凍結が起きた。農業関係では、ビニールハウスの倒壊が朝日町、滑川市、氷見市を中心に13市町村で79棟が全半壊した。また、7市町村で果樹の主枝折損等の被害のほか、魚津市で豚堆肥舎や鶏舎の全壊等が発生した。林業関係では、小矢部市スギ1,000本、黒部市でスギ200本が折損する被害が発生した。</p> <p>29日の県内は上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し、大気の状態が非常に不安定となり、未明から朝のうちにかけて沿岸部を中心に局地的に雷を伴った激しい雨が降った。高岡市伏木の最大1時間降水量は74.5mm、最大10分間降水量は18.5mmを観測し、共に伏木の6月の第1位を更新した。また、日降水量は130.5mmを観測し、6月の第2位となった。</p> <p>床上浸水3棟(富山市1棟、高岡市2棟)、床下浸水669棟(富山市14棟、高岡市178棟、滑川市457棟、入善町16棟、福岡町4棟)、高岡市万葉ライン城山付近で幅20メートルにわたって土砂崩れ、林道岡田線の路面欠損、太田渋谷川で土石流が発生。魚津市市道金山谷稗畠線で高さ7メートル、幅15メートルにわたって法面が崩壊し道路をふさいだ。滑川市市道改養寺森野新線が20メートルにわたって欠損。福岡町宅地法面が崩壊、滑川市で落雷による出火により納屋の一部と住宅屋根裏の一部を焼いた。高岡市で午前3時頃から1時間にわたって約1,700棟に停電。富山市で道路冠水(岩瀬天神町地内、岩瀬古志町地内、水橋市江新町地内、水橋東出町地内)、J R 氷見線雨晴駅付近の信号機が落雷の影響で故障し列車2本が最大48分の遅れ。北陸本線は14本が最大112分の遅れ。滑川市など3市1町の水稲5.8ヘクタール、大豆畑31ヘクタールが冠水。</p>
平成13年(2001) 8月4日	大雨	<p>4日の県内は三陸沖の低気圧から延びる寒冷前線が北陸地方を南下したため、県東部で1時間に20～30mm強い雨が降った。</p> <p>朝日町で町道湯ノ瀬北又線の越道峠付近で土砂崩れが発生し、一時通行止めになったほか魚津市で用水があふれ4棟の倉庫などが床下浸水した。</p>
平成14年(2002) 1月7日～8日	強風 雷	<p>日本海を発達した低気圧がゆっくり北東に進んだ影響で県内では、7日夜になって南西から西よりの風が強まった。8日後半には低気圧は北海道に進み上空に寒気が流入して冬型の気圧配置が強まった。7日21時26分魚津市駅前新町の路上に設置されていた看板が風</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成14年(2002) 3月21日	強風	<p>に飛ばされ商店の従業員の額にぶつかり、眉間を約5～6cm切った。</p> <p>8日は富山空港では、雪による上空の視界不良のため富山発着の合計7便に最大1時間半の遅れが出た。また、高速道路では、北陸、能越、東海北陸の各自動車道で50kmに速度規制されたほか、19時頃富山地方鉄道の稲荷町－越中三郷駅間の12の踏切が落雷のため故障し、約2時間10分にわたって遮断機が下りなくなり、踏切前で一時停止して運行したため、電車4本のダイヤが乱れ、最大40分の遅れが出た。JR高山線では、7日16時20分頃笹津駅で風速25m/sを記録したため、越中八尾－猪谷間の運転を21時40分まで見合わせ、特急列車2本が富山－猪谷間で区間運休、普通列車8本が運休または区間運休となった。</p> <p>寒冷前線を伴った発達中の低気圧が日本海北部を通過して、南よりの強い風が吹きフェーン現象となった。この強い南よりの強風で、魚津市役所議場のトタン屋根の一部が飛ばされたほか、砺波市苗加の民家の納屋のトタン屋根の一部も飛ばされた。また、JR高山線笹津駅で風速25m/sを記録したため、同線の富山－猪谷と富山港線の富山－岩瀬浜間で一時運転を見合わせた。特急列車4本、普通列車6本が運休や区間運休した。</p>
平成14年(2002) 7月9日～10日	大雨	<p>北陸付近に停滞していた梅雨前線の活動が活発となり、10日昼前には県内の所々で1時間に20～30ミリの強い雨が降った。国道41号線細入猪谷－楡原間など3か所、県道も一時8か所の通行止め。大沢野町長走の神通川右岸かすみ堤が陥没。魚津市升方の有山用水の護岸が幅7mにわたって崩れた。富山空港では5便が欠航。JRでは高山線などで20本が一部全区間運休。</p>
平成14年(2002) 10月15日	強風 落雷	<p>活動が活発な前線を伴った低気圧が日本海を東に進み、夜には寒冷前線の通過により天気が急激に変化して雷や強風を伴った天気となった。婦中町で208戸、富山市で100戸、滑川市で66戸が落雷のため高圧線の断線などで最大2時間余り停電したほか、強風とひょうによる農作物被害では、魚津市で軟弱野菜などのパイプハウス20数棟に被覆材の破損、リングにキズや落下の被害が発生し約20トンに及んだ。このほか、ひょうによる農作物被害では、露地野菜のレタス、ネギ、キャベツ、ハクサイなど2haで葉の損傷や玉割れ、大豆には子実の落下が約12haなどの被害が発生した。また、魚津市金浦町地内の公園の樹木2本が根元から倒木した。寿町地内の住居兼工場の外壁が強風により付近に置いてあった物が当たり一部破損した。</p>
平成14年(2002) 12月25日	落雷	<p>北陸沿岸を東進した低気圧の通過後に上空に寒気が流れ込み大気の状態が不安定となったため、夕方から東部を中心に雷雨となった。18時頃、魚津市江口のパ</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成15年(2003) 8月31日～9月1日	大雨 落雷	<p>チンコ店一階配電盤から落雷により出火し停電となった。また、18時30分頃、JR北陸線の魚津駅～入善駅間の踏切5か所が落雷により故障し、約1時間20分にわたって遮断機が下がったままになった。安全を確認するため徐行運転し、特急列車3本、普通列車5本に約20分～30分の遅れが出た。このほか、富山地方鉄道の電鉄黒部駅～浦山駅間で約1時間運転を見合わせ、地鉄新魚津駅～電鉄黒部駅間で徐行運転を行った。</p> <p>前線が北陸付近に停滞し、県内で大雨となった。各地の降り始めからの雨量は多いところで魚津226ミリ、宇奈月225ミリ、伏木218ミリ、泊176ミリ、氷見158ミリ、富山149ミリ、福光127ミリに達した。この影響で床下浸水が高岡市で18棟、魚津市で4棟、氷見市で19棟、滑川市、入善町、小杉町で1棟。道路冠水が高岡市で8か所、氷見市で5か所。土砂崩れが魚津市で4か所、高岡市で2か所、福光町、黒部市、氷見市で1か所。河川堤防破損が黒部市で1か所の被害が発生。また、河川が氾濫し、高岡市、福光町、魚津市であわせて0.29haの田畑に浸水や土砂侵入の被害が発生した。このほか、高岡市では落雷により264世帯が停電し、JRの運休2本、遅延6本、航空機の遅延1便などの影響が出た。</p>
平成16年(2004) 2月4日～2月8日	大雪 落雷	<p>2月4日から8日にかけて強い冬型の気圧配置となり、5日9時には輪島上空に-38.7度の寒気が流入し、県内は大雪となった。7日富山の降雪量(当9時～翌9時)は52cmに達し、アメダスの積雪観測では猪谷の134cmを最大に魚津、伏木、富山、砺波で50cmを超えた。この大雪のため、大島町の男性が除雪中に用水に転落し死亡、大山町と八尾町では男性が屋根の雪下ろし中に転落し1名が重傷、1名が軽傷を負った。また、大沢野町では投雪により用水が溢れ住家2棟が床下浸水し、八尾町では屋根に積もった雪の重みで非住家1棟が倒壊。大門町では落雷のため民家の一部が焼ける被害があった。JRでは除雪作業等のため運休20本、遅れ9本、航空関係では欠航22便、遅れ7便の影響が出た。</p>
平成16年(2004) 4月2日	強風	<p>発達した低気圧が日本海沿岸を北東に進んだ影響で県内で強風が吹き、最大瞬間風速は、富山で11時54分に27.7m/s、伏木で13時1分に26.9m/sを観測した。このため、魚津市でビニールハウスの破損5棟(710㎡)の被害があった。その他、JRでは強風のため運休6本、遅れ3本の影響が出た。</p>
平成16年(2004) 8月19日～8月20日	強風 高潮	<p>台風15号が19日に日本海を東北東に進み県内に夜半頃接近。20日には東北地方に上陸後太平洋に抜け北海道の南海上を東に進んだ。台風15号による強風等の影響で19日及び20日には高潮により新湊市で床下浸水や道路及び水田約0.6haの冠水。高岡市では道路及び水田</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成16年(2004) 8月30日～8月31日	強風	<p>約50㎡の冠水。富山市及び氷見市では道路の冠水があった。また、県東部を中心に果樹の落下被害があり、富山市などで果実(梨)の落下約125t、魚津市などで果実(りんご)の落下約45tがみられた。また、強風による停電が県内で500戸あった。</p> <p>台風16号は九州に上陸した後、山口県を通り日本海へ抜け、北東に進み北海道に再上陸した。県内には31日明け方頃最接近した。この台風の影響で、氷見市などで建物の屋根が飛ぶ被害が発生したほか、福光町、氷見市で倒木による道路の通行止め、富山市、魚津市などで果樹の落下や稲の倒伏、ビニールハウスの破損などによる農作物への被害が生じた。また、県内1,539戸で停電となったほか、交通機関に運休、遅延が生じた。</p>
平成16年(2004) 9月7日～9月8日	強風 高潮	<p>台風18号は、7日9時半頃長崎市付近に上陸し、その後日本海へ抜け北東に進み秋田沖を経て北海道の西海上を北上した。富山県には7日21時頃最も接近した。台風の強風により重傷者が上市町2名、八尾町1名、福光町1名、富山市他5市町で軽傷者15名の人的被害があった。また、富山市62棟、魚津市20棟他8市町村で住家の一部損壊、婦中町13棟他10市町村で非住家の一部損壊などの被害があった。強風によりごみが用水をせき止めた影響で富山市で床下浸水2棟の被害があった。交通機関では砺波市や氷見市で国道、県道及び主要地方道の一部通行止めや航空機の一部欠航、JRや富山地鉄で遅れや運休があった。富山市他15市町村で8,800戸の停電があった。農業関係ではりんご、なしの落果など被害額5億円以上の被害となった。</p>
平成17年(2005) 7月11日～7月12日	大雨	<p>山陰から北陸にかけて梅雨前線が停滞し、この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み前線の活動が活発となったため各地で大雨となった。このため、魚津市(1棟)、高岡市、氷見市、入善町で床下浸水の被害があり、高岡市や氷見市などでは斜面崩壊や土砂崩れなどの被害があった。</p>
平成17年(2005) 8月6日	大雨 落雷	<p>県内は6日夕方、広い範囲で激しい雷雨に見舞われた。</p> <p>魚津市では午後4時50分 同市文化町10-3の富山地方鉄道「電鉄魚津駅」に停車中の上り列車(2両編成)の車両2両目に落雷。2両目のパンタグラフから出火し、2両目のパンタグラフと台車が焼損。内部の焼損なし。人的被害なし。地鉄本線は、黒部駅～上市駅間で上下線とも終日不通となった。その他、雷の影響により魚津市で約500世帯が一時停電。このうち北鬼江周辺の120世帯は配電線への落雷のため、午後5時20分から2時間20分余りにわたり停電した。</p> <p>また、集中的な雨のため本江と仏田の住宅や駅前新町の店舗など計6棟で床下浸水した。</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成17年(2005) 8月15日～8月18日	大雨	上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、大気の状態が不安定になり各地で局地的な激しい雨が降った。魚津市では雨が強まった午後6時からの1時間で26mmの雨量を記録し、午後7時ごろ同市三ヶの住宅地で近くの用水の水が4戸の玄関先などについて。県内の交通機関も遅延や不通になるなどの被害が発生した。
平成17年(2005) 8月19日	大雨 落雷	南から湿った暖かい空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり局地的に激しい雷雨となった。このため富山市、魚津市、立山町、舟橋村などで落雷により1,700戸が停電し、魚津市では上水道送水ポンプが停電の影響で停止し、1,900世帯が一時断水した。
平成17年(2005) 12月4日～12月5日	暴風	日本海ある発達した低気圧が南下しながら通過し、また上空には強い寒気が入り込み大気の状態が不安定になった影響で、県内では強い風が吹き、所々で雷が発生した。このため魚津市では強風にあおられて女性1名が転倒、重傷を負った。富山市、高岡市、南砺市では落雷により民家が破損するなどの被害が発生した。その他、高岡市、入善町で合わせて約380戸で停電し、交通機関にも運休や遅延などの影響が出た。
平成17年(2005) 12月26日～12月31日	大雪	県内は強い冬型の気圧配置となったため大雪となった。魚津市では屋根に積もった雪で倉庫1棟(住吉)が全壊したほか、各地で屋根の雪下し中の転落や転倒によるけが人が相次いだ。その他、交通機関にも運休や遅延などの影響が出た。
平成18年(2006) 1月3日～1月12日	大雪	強い冬型の気圧配置により県内各地で大雪による被害が発生した。魚津市では空き家1棟全壊(大沢)、空き家2棟半壊(六郎丸・三ヶ)、ビニールハウス1棟全壊(島尻)の被害があった。その他、交通機関にも運休や遅延などの影響が出た。
平成19年(2007) 2月14日	強風	日本海中部を低気圧が発達しながら北東に進み、14日21時には三陸沖に抜けた。このため、県内では、14日は南から西よりの風、15日には西よりの風がともに非常に強く海上ではしけとなった。 この影響で、小矢部市では15日女性が強風にあおられ転倒し、骨折する重傷を負ったほか、魚津市では倒木が電線を切断し320戸が停電する被害が生じた。また、北陸各県の強風により列車に運休や遅延が生じた。
平成19年(2007) 3月25日	地震	25日9時42分に能登半島沖(北緯37.2度、東経136.7度、深さ約11km)で地震(マグニチュード6.9)が発生し、富山市、滑川市、舟橋村、氷見市、小矢部市、射水市で震度5弱を観測した。魚津市では震度4を観測。 この地震により、県内では、富山市で1名が重傷を負った。高岡市(6名)、魚津市(2名)、射水市(2

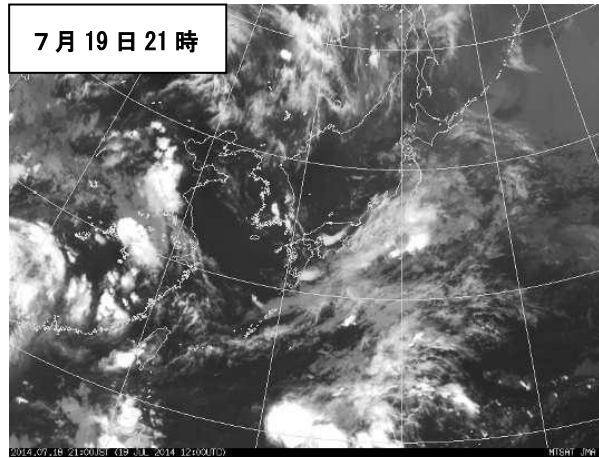
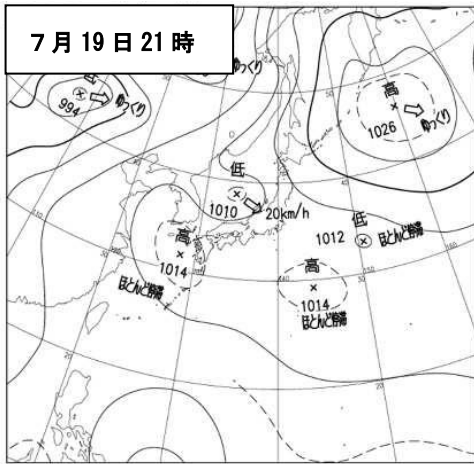
年 月 日	災害項目	記 事
平成19年(2007) 7月16日	地震	<p>名)、氷見市(1名)、小矢部市(1名)が軽傷を負った。魚津市では、天井や窓ガラス等の建物被害が発生したが、津波による被害はなかった。</p> <p>16日10時13分に新潟県上中越沖(北緯37.3度、東経138.3度、深さ約17km)で地震(マグニチュード6.8)が発生し、舟橋村、氷見市で震度4、魚津市をはじめその他全市町村で震度3を観測。この地震による被害は高岡市での軽傷1名のほかは見られなかった。</p>
平成19年(2007) 12月3日	落雷	<p>前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら東北東進した。また、昼前に寒冷前線が当地方を通過し、上空に寒気が入り大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷雨となった。</p> <p>魚津市では、民家の屋根に落雷し、天井板やテレビアンテナの配線を焦がした。また、ケーブルテレビの伝送路が落雷による被害を受け、約600世帯がケーブルテレビの視聴ができない状態となった。鉄道では、魚津市内のJR北陸線の踏切設備が落雷により故障したため、並走している富山地方鉄道を含め遅れが出た。</p>
平成20年(2008) 2月24日	高波	<p>23日低気圧が日本海中部を発達しながら東北東に進み、24日に三陸沖に抜け、日本付近では冬型の気圧配置が強まった。この発達した低気圧の影響で、23日から24日にかけて風が強く、富山県の沿岸では24日の明け方から波が高くなった。</p> <p>この高波により射水市(1名)、入善町(1名)で死者が出た。特に被害が集中していた入善町及び黒部市では家屋の全半壊、床上・床下浸水など高波による住宅被害が多数発生した。</p> <p>魚津市では人的被害、住宅被害はなかったが、漁業関係者の刺し網など漁具の被害が出た。</p>
平成20年(2008) 7月7・8日	大雨 山崖崩れ 竜巻 落雷	<p>7日から8日にかけて、南から暖かく湿った空気が入り、上空に寒気を伴った気圧の谷が通過したため、雷を伴う非常に激しい雨が降り、竜巻も発生した。県内のアメダスでは7日23時から8日15時までの総降水量が100ミリを超えるところがあるなど大雨となった。</p> <p>立山町では、増水した川に流されて1人が行方不明になり、富山市などの9市町村では、大雨で床上浸水や床下浸水が合計220棟発生した。各地で、土砂崩れにより道路が通行止めとなり、列車の運休や遅延、停電、農地の冠水なども発生した。</p> <p>魚津市では、床下浸水1棟(三ヶ)、農道法面崩壊(舁田)の被害があった。</p>
平成20年(2008) 7月28日	大雨 山崖崩れ 落雷	<p>北陸地方に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となったため、雷を伴って非常に激しい雨が降った。県内の観測所では多いところで1時間に70ミリを超えるところがあるなど、記録的な大雨となった。</p>

年 月 日	災害項目	記 事
平成20年(2008) 8月15・16日	大雨 山崖崩れ	<p>魚津市では、落雷により住宅1棟が火災、大雨による道路冠水が2ヶ所(吉島・高島)、道路冠水及び土砂堆積が2ヶ所(片貝)で発生した。</p> <p>15日から16日にかけて、日本海に停滞していた前線が北陸まで南下して活動が活発になり、この影響で、雷を伴い非常に激しい雨となった。県内のアメダスでは、15日23時から16日24時までの総降水量が180ミリを超えるところがあった。</p> <p>16日、富山市などの5市で、大雨による床上浸水や床下浸水が合計197棟発生した。</p> <p>魚津市では、人的被害、住宅被害はなかったが、田の畦畔及び法面崩壊(大海寺野)が発生した。</p>
平成20年(2008) 9月26日	山崖崩れ	<p>25日夜半から26日未明にかけての大雨による用水の溢水により、斜面が崩落(布施爪)し、人家敷地内へ土砂や倒木が流入した。</p>
平成21年(2009) 10月8日	強風	<p>台風第18号の接近で暴風となり、海ではしけとなった。魚津市と上市町では女性が風で転倒し、足の骨を折る重傷を負った。富山市と射水市でも、強風による転倒などで3名が軽いケガをした。また、富山県内で強風による住宅の一部損壊が7棟、非住家の被害が21棟発生した。</p>
平成21年(2009) 12月17～22日	大雪	<p>17日から21日にかけて、冬型の気圧配置が強まり大雪となった。県内では降雪や路面の凍結によるスリップ事故が310件発生し、交通事故や転倒で45人が負傷した。魚津市では、人的被害、住宅被害はなかったが、雪による倒木が市道(大熊)を塞ぎ、一時通行止めとなった。</p>
平成22年(2010) 1月14日	大雪	<p>14日の県内は強い冬型の気圧配置に覆われて大雪となった。魚津市では70cmを越す積雪となり、雪が詰まった用水が溢れ、住家3棟、納屋1棟が床下浸水した。また、農産被害として園芸用ハウスが3棟倒壊する被害も発生した。</p>
平成22年(2010) 9月12・13日	大雨	<p>12日から13日にかけて県内では局地的な集中豪雨が発生した。魚津市では、本江地区3戸、経田地区7戸、道下地区1戸の計11戸が床下浸水した。</p>
平成23年(2011) 1月31日	大雪	<p>31日の県内は強い冬型の気圧配置により断続的に雪が降り、鉄道を中心とする公共交通機関がまひした。午後10時現在で魚津市の積雪は80cmに達し、屋根雪下ろし中の男性が転落し重傷を負った。高岡(伏木)では積雪が127cmを観測し、昭和56年の「五六豪雪」以来、30年ぶりに120cmを超えた。</p>

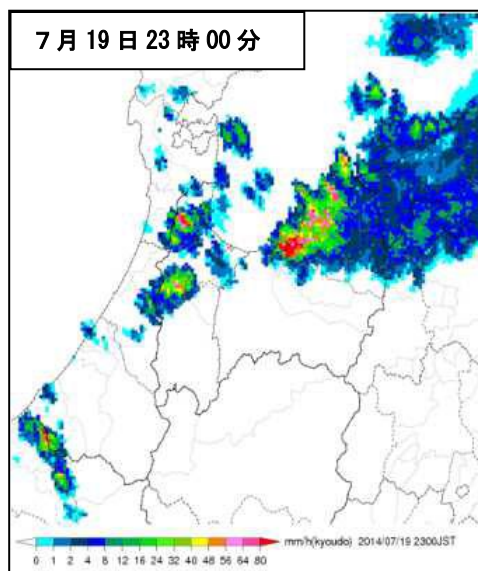
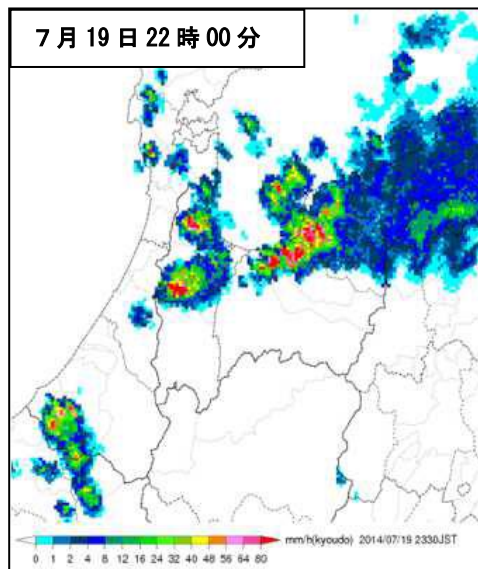
年 月 日	災害項目	記 事
平成24年(2012) 4月3・4日	暴風	3日から4日にかけて吹き荒れた暴風の影響で、魚津市内の女性が風にあおられ転倒し負傷した。また、民家のトタン屋根、雨どい、門扉などの住宅破損、またビニールハウスなどの農作物施設の被害が相次いだ。
平成25年(2013) 11月25日	大火	25日午前1時30分頃、本町二丁目地内の住宅から出火。出火時刻が深夜であり、木造住宅が密集する地域であったため、被害が甚大であった。全焼16棟、半焼4棟、部分焼2棟、ぼや1棟合計23棟が焼損し、り災世帯13世帯30名、死者1名。
平成26年(2014) 7月19日・20日	大雨 洪水 落雷	<p>19日から20日にかけて、上空に強い寒気を伴った低気圧が、日本海を南東に進み、20日9時には能登半島付近まで進んだ。富山県では、19日の夜遅くから20日未明にかけて断続的に非常に激しい雨が降り、魚津市では19日23時54分までの1時間に83.0ミリの猛烈な雨を観測し、降り始め(18日9時)からの降水量は280.5ミリとなった。また、解析雨量では砺波市砺波付近で20日2時までの1時間に約120ミリ、高岡市高岡付近で約100ミリの猛烈な雨を解析した。</p> <p>この豪雨により魚津市では床上浸水3戸(大町地区1戸、本江地区1戸、加積地区1戸)、床下浸水123戸(大町地区41戸、村木地区3戸、下中島地区7戸、松倉地区1戸、上野方地区4戸、本江地区46戸、加積地区10戸、天神地区10戸、道下地区1戸)の被害があった。また、土砂災害も発生し歴史民俗資料館の収蔵庫に市道法面の土砂が流入。東山神社が土石流により崩壊し、上中島地区の民家に土砂が流入した。市道小川寺長引野線、市道日尾1号線が崩壊し日尾・御影集落の交通アクセスが寸断された。また、市道に布設されている水道管も寸断され日尾集落9世帯に配水不能となった。</p> <p>【市道・農林業施設の被害状況】 市道73箇所。水路127箇所、農道47箇所、農地345箇所、林道6箇所、治山7箇所</p>
平成28年(2016) 4月17日	暴風	17日の早朝からの強い南の風(最大瞬間風速31.6m/s)により、住家の一部損壊が14棟、その他の建物の一部損壊が6棟あり、倒木や選挙期間中であったため看板などの破損が相次いだ。
平成29年(2017) 1月12日	落雷	吉島地内での落雷により住家の一部損壊が1件、その他の施設で電気設備の故障があった。
平成29年(2017) 1月21日	暴風	暴風警報発表中、沖合で操業中であった漁船が高い横波を受け、漁師1名が海中に転落したもので、病院収容2時間後、死亡確認となった。

○平成26年7月19日～20日発生豪雨災害時の気象データ（富山地方気象台提供）

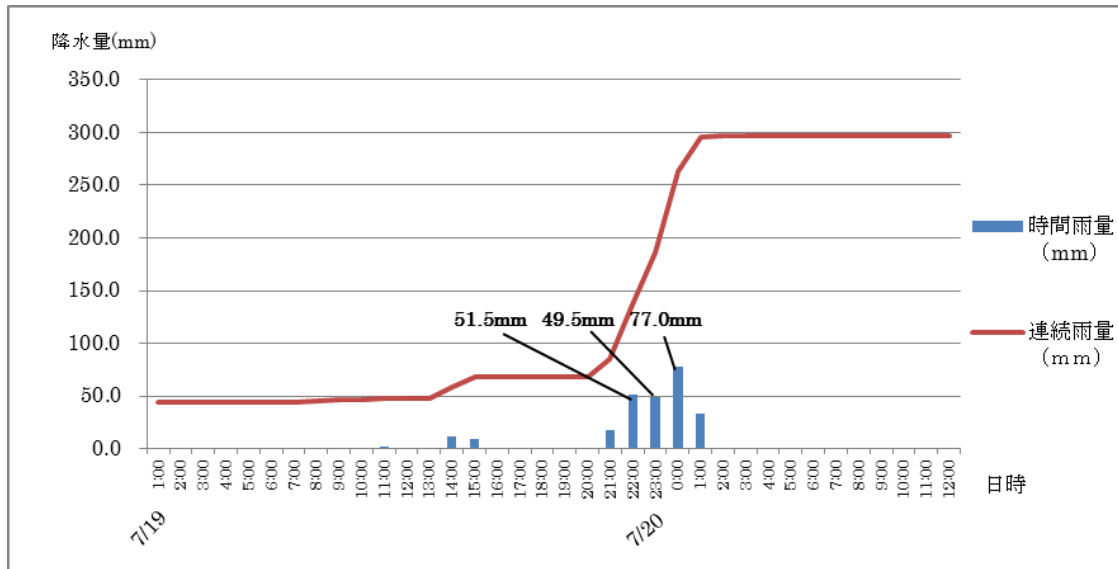
(1) 地上天気図及び気象衛星赤外面像（平成26年7月19日21時）



(2) レーダーエコ合成図（平成26年7月19日22時00分～7月19日23時00分まで）



(3) 平成26年7月19日から20日にかけての時間雨量及び連続雨量



(4) 雨の状況

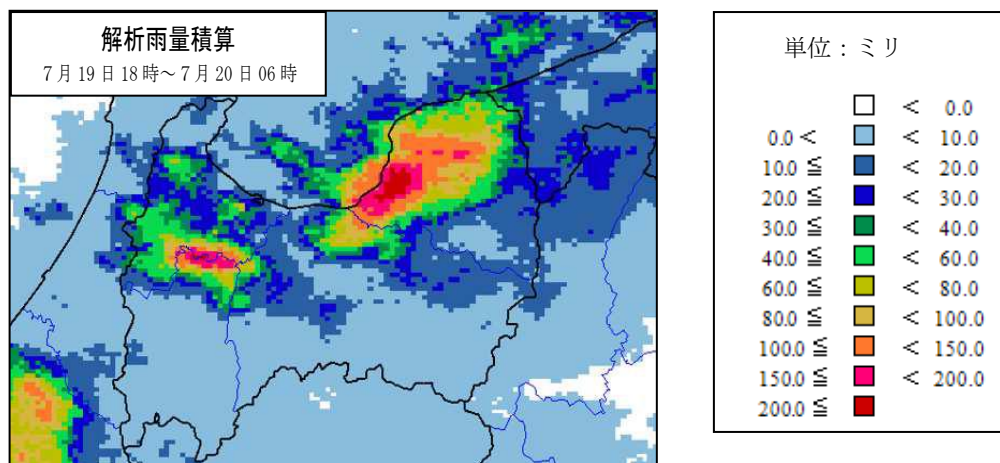
解析雨量では、19日18時から7月20日06時までの12時間積算で、魚津市で約250ミリの雨を解析した。7月19日23時から7月20日00時までの1時間に魚津市付近では約80ミリの猛烈な雨を解析し、7月20日01時から02時までの1時間に高岡市高岡付近では約100ミリ、砺波市砺波付近では約120ミリの猛烈な雨を解析した。

富山地方気象台は7月25日の報道機関への説明会において県内を襲った記録的豪雨は、積乱雲が連続して発生するバックビルディング現象であると発表した。

バックビルディング現象

バックビルディング現象とは、ある場所で積乱雲が発生し続け、上空の風に流されて積乱雲が移動し別の場所で雨を降らせる現象です。その際、積乱雲が線状に並び、同じ場所で強い雨や雷をもたらします。(ウェザーニューズHPより)

○解析雨量（7月19日18時～7月20日06時までの12時間積算雨量）



1-2 魚津市における伝承災害

〔「魚津市史 下巻 現代のあゆみ」、1972年〕

災害名	水害
発生日時	昭和27年6月30日～7月1日
被災地	市内全域（片貝地区の貝田新から島尻は被害甚大）
災害の概要	6月30日夜半から7月1日にかけて市内を襲った大豪雨は、実に40年ぶりのものといわれ、当市を貫流する早月川・角川・片貝川及び布施川と、これにつながる幾多の支流に氾濫を招き、市内の各所において堤防が決壊した。道路橋梁の流失・田畑山林の流失・埋没・冠水に加えて、家屋の全壊・流失・半壊及び床上・床下浸水などで、罹災者総数7,150人、被害総額12億円を上回る大災害となった。
教訓等	市制が発足して間もない折に、豪雨により百年ぶりともいわれる河川の大洪水が起き多くの被害が出た。これを機に、抜本的な防災対策の見地から、河川改修を押し進めるとともに、山間地帯の砂防工事を施して山災に備えることとした。また、緊急時の資材・器具を備えた水防倉庫の建設や河川沿岸の住民で、魚津市水防団を結成して、有事に対処することとなった。

災害名	魚津大火	
発生日時	昭和31年9月10日	
被災地	8割以上焼失した町	真成寺町・神明町・金屋町・金浦町・上村木町・下村木町・川原町・鴨川町・村木
	一部焼失した町	餌指町・諏訪町・本新・本江
災害の概要	魚津市真成寺町から出した火が、台風通過後の南南西の風にあおられるなどの気象的な悪条件により、火はたちまち燃え広がり、市街地の約40%が焼け野原になった。焼失面積15万坪、焼失戸数1,496戸、焼失田畑51町6反、罹災世帯1,583世帯、罹災者7,249人、死傷者は、死者5人・重傷者5人・軽傷者165人、被害見積総額75億8千万円であった。	
教訓等	昭和27年に魚津市が発足して以来、最も被害の大きい災害のひとつである。被災地は、魚津市の市街地を形成しており、当時県下有数の過密地帯であり、町並みも雑然としていて、一朝有事の場合は大災害をもたらす危険があると指摘されていた地区であった。市は、このような大火災に再び見舞われないように、不燃都市の造成を目標に都市区画整理事業、幹線街路建設等を行い近代都市に変貌していくこととなった	

災害名	水害
発生日時	昭和44年8月10日～11日
被災地	市内全域
災害の概要	8月10日から11日にかけて昭和27年以来の集中豪雨に襲われ、市全域にわたり大きな損害を与えた。被害は、罹災世帯996世帯、人員4,507人、橋梁流失12箇所、堤防決壊91箇所、砂防決壊47箇所、重傷者1名、その他多数の被害が発生し、被害見積総額は約14億円に及んだ。
教訓等	治水の根本的対策として、角川と布施川の上流に洪水調節と農業用水を目的としたダムが計画された。

1-3 富山県内に被害をもたらした主な歴史地震

本県に關係する歴史地震は、下表のとおりであり、中でも特に1586年の天正の大地震と1858年の安政の大地震は大きな被害をもたらしたことが過去の古文書等により確認されている。

なお、津波被害に関しては、近年記録が無く、被害の実態はつかめていないが、氷見海岸において、津波で乗り上げたものと考えられる巨岩が標高数m上で発見されるなど、有史以来、全くなかったという確証はない。

発生年	地震名	マグニチュード	県内の被害等	県内の震度
863 (貞観5)		7以上	民家破壊し、圧死者多数	
1586 (天正13)	(飛騨白川谷)	7.8±1	木舟城崩壊、白川谷被害多し	(5~6)
1662 (寛文2)	(琵琶湖付近)	7.25~7.6	神社仏閣人家被害、死傷者多し	(5)
1668 (寛文8)			伏木・放生津・小杉で潰家あり	
1707 (宝永4)	宝永地震	8.4	家屋倒壊、天水桶ごとごとく転倒す	(5~6)
1858 (安政5)	飛越地震	7.0~7.1	大鷲・小鷲崩壊、洪水、流出家屋多し	(5~6)
〃	(大町付近)	5.7		—

(「新編日本被害地震総覧[増補改訂版]」宇佐美龍夫、1996年)

●天正の大地震

- ・1586年1月18日(天正13年11月29日)発生、M7.8の規模
- ・北陸・飛騨から美濃、近江の広い地域で被害発生。
- ・富山県内で被害：高岡市福岡町の木舟城が崩壊し、城主前田秀次以下家臣多数圧死。

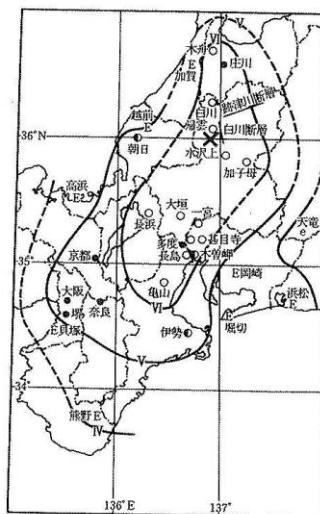
●安政の大地震

- ・1858年4月9日(安政5年2月26日)の真夜中発生、M7.0~7.1の規模
- ・震源：跡津川断層とみられている。
- ・震度5以上の地域：飛騨北部から越中、加賀に及ぶ。
- ・富山県内での被害：県東部は震度6で、富山城の石垣・門等が破損。富山市本宮では山崩れがあり、死者36名。県西部では、震度5で、高岡では地割れが生じ、寺が傾いた。

※常願寺川上流の立山カルデラでは、大鷲・小鷲の山崩れが起こり、湯川、真川を堰き止め、約2週間後に長野県大町近くで発生したM5.7の地震の振動で堰が崩れ、大洪水となる。その洪水による被害は、流出家屋等1,612戸、死者140人にのぼった。

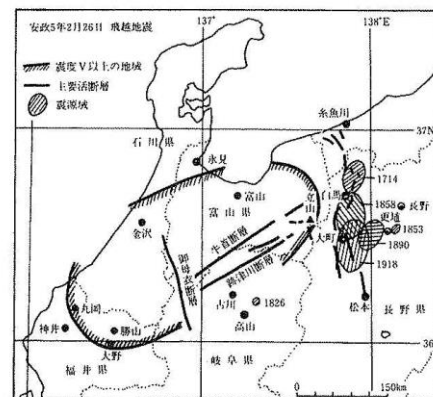
(「地震を視る」富山県[立山博物館]、1993年)

●天正の大地震



1586年1月18日(天正13年11月29日)のM7.8天正の大地震による震度の広がり。「新編日本被害地震総覧[増補改訂版]」(宇佐美龍夫、1996年)による。

●安政の大地震



1858年4月9日(安政5年2月26日)のM7.0~7.1の安政の大地震による震度Vの広がり。「新編日本被害地震総覧」(宇佐美龍夫、1987年)による。

1-4 震度4以上を記録した地震一覧

発生年	地震名	マグニチュード	県内の被害等	県内の震度
1933 (昭和8)	七尾湾	6.0	傷者2、氷見で土砂崩れ、亀裂	伏木4
1944 (昭和19)	東南海地震	7.9	不明	富山4
1948 (昭和23)	福井地震	7.1	西部で被害	富山4
1952 (昭和27)	大聖寺地震	6.5	硝子破損	富山、八尾、女良4
1993 (平成5)	能登半島沖	6.6	非住家、水路、ため池に被害	富山、伏木4
2000 (平成12)	石川県西方沖	6.1	被害なし	小矢部4
2007 (平成19)	能登半島沖地震	6.9	重傷1、軽傷12 非住家一部損壊5	富山、氷見、滑川、小矢部、射水、舟橋5弱 高岡、魚津、黒部、砺波、南砺、上市、立山、入善、朝日4
2007 (平成19)	新潟県中越沖	6.8	軽傷1	氷見、舟橋4

1-5 過去の津波

本県で発生した過去の津波としては、1833年山形県沖地震、近年では1964年新潟地震津波、1983年日本海中部地震津波、1993年北海道南西沖地震津波が挙げられる。(被害の記述なし)

発生日月	地震の名称	地震規模	富山県での記録
1833年12月7日	山形県沖地震	M7.8	氷見で1~2mの高さ
1964年6月16日	新潟地震	M7.5	検潮記録による高さで、魚津38cm(推算潮位上)、富山48cm(TP上)、伏木61cm(TP上)
1983年5月26日	日本海中部地震	M7.7	現地調査による高さで、滑川市0.43m、新湊市0.34m、高岡市0.65m、氷見市0.72m、氷見市中安0.15m
1993年7月12日	北海道南西沖地震	M7.8	最大全振幅で、富山17cm、萩浦橋(富山)13cm、富山新港22cm、伏木港17cm

「日本被害津波総覧【第2版】」(東京大学出版会)による。

1-6 震度別地震回数

- ・1933年から1996年までは富山市石坂(富山地方気象台)での震度回数
- ・1997年以降は魚津市釈迦堂での震度回数(魚津市釈迦堂での観測開始:1996年4月)
- ・1996年9月以前の5・6は5弱・6弱として記載

年	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	備考(「」は地震名)
1933 昭和8	4	1	0	1	0	0	0	0	0	6	七尾湾
1934 9	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	
1935 10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
1936 11	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
1937 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1938 13	3	2	0	0	0	0	0	0	0	5	
1939 14	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
1940 15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
1941 16	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
1942 17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1943 18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1944 19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	「東南海地震」
1945 20	2	3	1	0	0	0	0	0	0	6	「三河湾地震」

年	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	備考(「」は地震名)
1946	21	3	0	1	0	0	0	0	0	4	「南海道地震」
1947	22	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
1948	23	3	6	5	1	0	0	0	0	15	「日高川地震」「福井地震」
1949	24	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
1950	25	2	1	0	0	0	0	0	0	3	
1951	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1952	27	2	1	2	1	0	0	0	0	6	「大聖寺地震」「吉野地震」
1953	28	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1954	29	0	0	1	0	0	0	0	0	1	富山湾内
1955	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1956	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1957	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1958	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1959	34	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
1960	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1961	36	0	0	2	0	0	0	0	0	2	「北美濃地震」
1962	37	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
1963	38	2	1	2	0	0	0	0	0	5	長野県西部、「越前岬沖地震」
1964	39	0	0	2	0	0	0	0	0	2	「新潟地震」、新潟県沖
1965	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1966	41	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
1967	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1968	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1969	44	1	0	1	0	0	0	0	0	2	岐阜県中部
1970	45	2	0	2	0	0	0	0	0	4	富山県沿岸
1971	46	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
1972	47	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
1973	48	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1974	49	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
1975	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1976	51	1	2	0	0	0	0	0	0	3	
1977	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1978	53	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1979	54	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
1980	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1981	56	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1982	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1983	58	2	1	0	0	0	0	0	0	3	
1984	59	3	1	1	0	0	0	0	0	5	「長野県西部地震」
1985	60	2	0	1	0	0	0	0	0	3	能登半島沖
1986	61	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1987	62	3	0	1	0	0	0	0	0	4	新潟県沖
1988	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1989	平成元	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1990	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
1991	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1992	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1993	5	10	2	0	1	0	0	0	0	13	能登半島沖
1994	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1995	7	4	1	1	0	0	0	0	0	6	「兵庫県南部地震」
1996	8	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
1997	9	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
1998	10	3	0	0	0	0	0	0	0	3	岐阜県飛騨地方
1999	11	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
2000	12	0	1	0	0	0	0	0	0	1	石川県西方沖
2001	13	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
2002	14	1	0	0	0	0	0	0	0	1	

資料編 1 災害記録等に関する資料

年	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	備考（「 」は地震名）
2003	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2004	16	8	5	1	0	0	0	0	0	14	「新潟県中越地震」
2005	17	2	1	0	0	0	0	0	0	3	
2006	18	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
2007	19	14	4	1	1	0	0	0	0	20	「能登半島沖地震」「新潟県中越沖地震」
2008	20	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
2009	21	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
2010	22	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
2011	23	11	4	0	0	0	0	0	0	15	「東北地方太平洋沖地震」
2012	24	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
2013	25	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
2014	26	0	0	1	0	0	0	0	0	1	「神城断層地震」
2015	27	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
2016	28	4	0	0	0	0	0	0	0	4	

2016年12月31日まで記載

(資料：富山地方気象台)